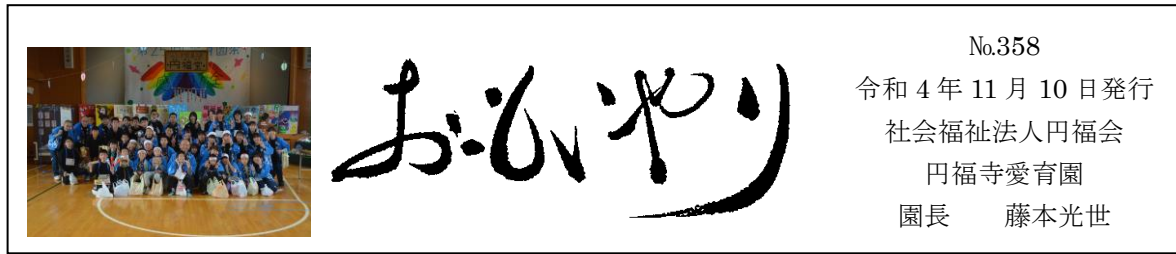


今年の愛育園祭には、コーヒーカップも現われました。大盛況です。



愛育園祭 成長する施設 子どもたちも愛育園も

園長 藤本光世

コロナで、今年も室外で行う開祭式と書道パフォーマンスに限り、校長先生や関係の皆さま、そして西横田の皆さまにおいでいただき、子どもたちの姿を見ていただくことができました。

子どもたちの発表は一瞬ですが、そこには普段の子どもたちの生活が凝縮しています。そして、子どもたちの努力も職員の努力も凝縮しています。ですから、皆様から子どもたちの姿に感動したというお言葉をいただきます。それは、私たちにとってとっても嬉しいことです。

愛育園祭は九時半のお神輿の練り歩きでスタートします。お忙しい中をおいでいただいた当園監事の衆議院議員若林健太先生より励ましのお言葉を頂いて出発です。わっしょいわっしょいの掛け声で、横田名人作のとっても重い獅子頭を男子中高生と職員が十人がかりで担ぎ、練り歩きます。圓福寺の本堂前で、一日の無事と愛育園祭の成功を祈って般若心経をよみお釈迦さまにお参りをします。大きな声の心経が境内に響きます。「十方三世・・・」が響きます。それは先代の父に届いたでしょう。そしてとっても喜んで、愛育園祭の大成功を保証してくださったと思いました。

開祭式は昨年から幼稚園第二駐車場で行います。冒頭に盛り上げるのは、男子中高生と職員による木遣りです。めでたい愛育園祭を寿ぎます。その後の、開祭宣言は高校3年生のN君でした。感動したなあ。篠ノ井東中学校の山下校長先生はN君の中学時代を知っています。その子がこんなに立派に成長して、堂々と自衛隊に合格したことを大勢の前で宣言し、世のため人のために働いて恩返しをしてくれると言ってくれました。その姿に涙が出たと言ってくれました。

運動会で演じた扇子演舞は、きっとおいでになった皆様の心に焼き付いたと思います。運動会は愛育園から2キロほど離れた塩崎の山崎公園グランドで行い、ご案内は関係者に絞ってしまったので、大勢の皆さんに見ていただけたのは有難かったです。

その後は、中高女子児童と職員による第10回書道パフォーマンスです。アトラクションが終ってから食事会の感想の中で、女子児童はみんな書道パフォーマンスの感想を話してくれました。一週間前にテーマを変更したこと、変更して誰も不平を言うことなくさらに挑戦しようという心が全員にみなぎったこと、夜遅くまでみんな練習したこと、一週間で大きく成長したこと、な

どが自然と発表されました。職員も、児童もみんなよく頑張ったのです。それが、当日の最高の出来映えとなりました。

当園の監事の笠原寛夫先生は、篆刻で日展の審査員をされるほどの方です。その先生から、「初めて見た、とても感動した」というお言葉をいただきました。子どもたちにとってこんなにうれしいお言葉はありません。書道パフォーマンスは石崎主任保育士の提案で平成25年度(10年前)から始まりました。当時の「おひやり」を読んでみました。いろいろな子どもたちをまとめて頑張ったなあと伝わってきました。今年が第10回目。女子児童は中学になったら書道パフォーマンスをやるんだと、やる気満々で心の準備をしています。それが、立派な作品と子どもたちのまとまりと、書道パフォーマンスを通した職員とのつながりになったと思いました。



アトラクションで、中学生以上の男子は、小学生以下の子どもや中高女子や先生方を楽しませる係です。愛育園祭の三週間ほど前、準備が始まる時に、富澤ホーム長が子どもたちに話しました。「中高生のアトラクションは、自分が遊びたくても我慢して、小さな子どもたちを喜ばせてあげる役割だ。君たちはどうするのか。遊びたくて準備を手抜きする子は、楽しむ側に回すから今すぐ申し出なさい」と。誰も申し出る者はなかったそうです。ですから、もぐらたたきとか、射的とか、コーヒーカップとか、ストラックアウトとかいろいろなアトラクションで大きな子は一生懸命小さな子を楽しませてあげて、しかも昼食会の感想で六年生の子はみんな、来年は楽しませてあげる側に回って、一生懸命楽しませてあげたいと言っているのです。人を楽しませてあげることは、本当はとっても楽しいことであることを子どもたちは知っているのです。このことを思ったとき、私は学生の頃に父の恩師である渡邊薫美師から「子は育くむ母の天国である」と聞いたことを思い出しました。本当の喜びは、人に尽くすことにあるのです。愛育園の子どもたちは分かっていると思いました。

社会的養育は子どもを成長させなければなりません。子どもを幸せにすることはそういうことです。「子どもを幸せにすること」が社会的養育の目的です。それが容易ではないことは、きっとどなたもお分かりいただけると思います。でも愛育園は出来ているのです。そしてさらに成長しようとしているのです。それが今回の愛育園祭でも如実に表れました。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

食事会の後は後片付けです。子どもたちは約1時間で、全員が集中して、あっという間にやり遂げてしまいました。

この力を、生活に生かして子どもたちは成長するでしょう。その証拠を今年高校を卒業するN君が示してくれました。N君ありがとう。

愛育園の子どもたち、そして職員のみなさんありがとう。愛育園万歳！！

エネルギーが満ち溢れた愛育園祭

あおぞらホーム長 富沢正樹

先日、第25回愛育園祭が行われました！

愛育園祭は、日頃お世話になっている地域の方や先生方、お友達、役員の皆様など、愛育園を支えて下さっている全ての人に感謝を伝える為のお祭りです。しかし、コロナ禍で多くの方を招待する事ができなくなって、もう3年目を迎えてしまいました。

愛育園祭について、私は2年前のコロナ禍1年目の出来事を大切にしています。コロナへの対応策に追われ、愛育園祭も規模縮小を余儀なくされ、感謝を伝える相手も呼べず、目的を見失いながらも「今年は仕方ないか…」と残念に思いながら準備を進めていた所、園長先生から「愛育園祭が、その後の子ども達の生活に生きるものであってほしい」と話されました。この時、愛育園祭まで5日を切っていました。「いやぁ、この状況で無理だろお」と一日悶々とした気持ちで過ごしましたが、翌日「感謝の気持ちを伝えるという事に、目の前に相手がいるとかいないとかは関係ないよな」と思い直して、男の子が毎年やっている木遣りに、中高生の剣演舞と小学生の大きな掛け声を急遽組み込み、子ども達は必死に練習して、結果、愛育園祭を大きく盛り上げてくれました。そして次の年(去年)は体育館をまるでテーマパークのような空間にみんなで大変身させ、各アトラクションや露店の大看板を11枚も制作してみました。

通常通り人を呼べなくても、そんなことは関係なく一生懸命発表の練習したり、楽しそうにアトラクションを作ったりして準備を進める子供たちの姿を見て、私は、この前向きさや成長を支えて下さる方々に子ども達自身で伝える事が何よりも感謝につながるのではないだろうか考える様になりました。

自分を成長させ、その成長を表現するという事は、けっこう難しい事です。なぜなら意欲の問題があるからです。自尊心が低いと「やっても無駄。意味ない」が先に来ます。さらに表現するとなると周囲の大人への警戒心や不信感から「別にどう思われてもいいし」となって余計消極的になります。

ここ数年の愛育園の子ども達は真逆です。そして、今年の子供達は去年一昨年より、やる気、勢い、前向きさが更にすごかったです。扇子演舞も書道パフォーマンスもちよっとレベルの高い課題を設けると「やるやる！やりたい！」って感じで乗ってきますし、本番で堂々と発表する事

(令和4年11月10日発行 月刊「円福」506号付録)

ができます。また、本番でそれまで一番いいパフォーマンスを持ってこれる所も、本当にすごいと思います。アトラクションや装飾や看板の制作も楽しくて仕方ない！といった感じでとても積極的に行っていました。

こうやって意欲的な姿が多く見られるようになったのには、日々、子ども達と先生方がたくさん遊んでたくさん会話するという関わりの多さからくる安心感の高まりがあると思います。行事前は、そういった関わりが更に濃くなるのでもっともっと子ども達の顔つきが良くなります。そうやって安心感が高まると「やってみよう」という意欲が湧いてきます。そして、その意欲は園の行事の中で定めた目標を達成する事で少しずつ自信に変わります。

今年度だけ見ても5月の善光寺20kmウォーキング、7月の臨海学習、8月のキャンプ、9月の運動会を行ってきましたが、ことごとく大成功させてこれた事やそれらの行事が夢中で全力で最高に楽しかったという経験となっている事で大きな自信となっている様に思います。そうやって毎年毎年一つずつ積み重ねた自信は今や「やってみよう」に留まらず、「早くやりたい。もっとやりたい。」と、私や他の先生方の指示を追い越す勢いの意欲にまで育っています。こんなにも嬉しい事があるでしょうか？みんなとても気持ちが充実しています。

今年の愛育園祭はそんな子ども達の意欲やエネルギーが満ち溢れた過去最高の愛育園祭になったのではないかと思います。コロナ禍1年目に、愛育園祭をただただ規模縮小させる道か？子ども達の成長を目指す道か？を選択する時、その分岐を間違えなくて本当に良かったと思います。

今回ご来園頂いた来賓の皆様や先生方には、子ども達の心の成長を感謝の気持ちとして受け取っていただけたら非常に嬉しく思います。

最後に、開催宣言をしてくれた高3N君の言葉を載せさせていただきたいと思います。少し前まで精神的に幼く、人前で話す事が苦手だったはずのN君が、堂々と大きな成長を見せてくれました。

「皆さん、今日は待ちに待った愛育園祭です。今年のテーマは「感謝万全」です。コロナ禍で多くの人を呼べなくなって3年目。いつ通常開催に戻ってもいいように、いつでも全力の感謝を伝えられるように、、そんな気持ちで一生懸命準備を進める皆さんの姿がとても素晴らしかったです。まさに感謝を伝える準備が万全に整いました！

僕は、今年が最後の愛育園祭になります。実は5日前、僕は無事、自衛隊の試験に合格することが出来ました。来年の春、自衛隊に行って一生懸命人の為に頑張りたいと思っています。そして今日も、来て下さった方に喜んでもらえるように一生懸命に動きたいと思っています。たくさん



感謝を伝えて、たくさん感謝されたいです。皆さんも、日ごろの成長を表現できるそんな一日しましょう。

それでは、今ここに、第25回愛育園祭の開催を宣言いたします」

第25回愛育園祭



主任保育士 石崎早織

第25回愛育園祭が10月30日に行われました。コロナ禍で今年も園内行事となりましたが、外で行う開催式には関係者の皆様にもお越しいただき、扇子演舞やまごころ中高生と職員で行う書道パフォーマンス、あおぞらによる木遣りを見ていただくことができました。ありがとうございました。

さて今年の愛育園祭のテーマは「感謝万全」でした。日頃の感謝の気持ちをこの愛育園祭という行事を通してどう表現するかを私なりに考えていました。そんな中で書道パフォーマンスの練習が始まりました。今年の書道パフォーマンスの大文字は「開花」でした。この言葉は係になっている竹内先生が決めてくれました。今年の行事を振り返り、子どもたちが持っている力や、それ以上の力を発揮できている様子を持って「開花」にしよう決めてくれました。私もこの言葉を聞き、まさに今年の書道パフォーマンスにぴったりの言葉だと思いました。私は今年書道パフォーマンスの係ではありませんでしたが、どんな様子で練習をしているのか気になり見に行かせてもらいました。ちょうどその日は初めて大きな紙を使って作品を書く日でもありました。子どもたちは先生の指示を聞きながら自分の任された文章を書いていましたが、その様子を見てどこか物足りなさを感じました。手を抜いているわけでもないし、適当にやっているわけでもありませんでしたが、完成した作品を見て毎年感じているような感動がまだ伝わってきませんでした。そのことを正直に子どもたちに伝えました。書道パフォーマンスは愛育園祭の目玉でもあり、楽しみにしてくれている人がたくさんいること、このままでは見に来てくれた方に感動してもらえない、もっと気合を入れて練習に臨んだ方がいいと伝えました。でもどこを改善すればいいか私自身もわからず具体的なことが言えませんでした。それから数日考えた結果、子どもたちの力を発揮させるために「開花」の文字だけを残し、新しい作品を作ることになりました。正直愛育園祭1週間前だったので、このままで間に合うのか、新しい作品にすることを子どもが受け入れてくれるかなど葛藤はありましたが、富澤先生が背中を押してくれ、私も一歩踏み出すことができました。夜の練習前に子どもたちを呼び、来ていただいた方に感謝の気持ちや感動してもらえらるためにレベルアップしたものを作ろうと伝えると、誰一人反対することもなく、みんなやる気が入ったのか表情がガラッと変わったのがわかりました。その日から愛育園祭前日まで毎日の練習が始まりました。練習ができるのも20時半から22時までの1時間半しかなかったため、限られた

時間の中で少しでも自分の字が上達するように一生懸命練習していました。「この字はどうやったらきれいに書ける？」などとにかく積極的に質問してくれる姿が多かったです。みんなの前向きな姿勢が字にも表れ日に日に上達していくのがよくわかりました。また文章の割り振りもできるだけその子にあった言葉を書いてほしく、それぞれ分担しましたが、今回「勇往邁進」を担当してくれたUちゃんはとっても大変だったと思います。もともと習字はあまり得意ではなかったため、字のバランスを考えて書くことや筆をおく角度に苦労していました。このままでは愛育園祭に間に合わないかも、と心配もありましたが、毎日もくもくと練習し、アドバイスを本当に素直に受け入れ一文字一文字一生懸命書いている姿を見て、心配の気持ちもなくなりました。ここまで本気で練習すれば絶対に本番も大丈夫という自信もありました。その結果本番は今までの中で一番きれいな字を書くことが出来ていました。本番を迎えるまでに大きな紙を使って何度も練習し、改善点を見つけてはすぐに修正する、を繰り返し行ってきましたが、そこに手を抜く子は一人もいませんでした。練習から本気で取り組んだことで、本番は素晴らしい作品を書きあげることが出来たのだと思います。今回のテーマでもあった「感謝万全」。子どもたちは書道パフォーマンスを通してたくさんの方にその気持ちを伝えようと頑張っていました。その思いが届き、見ていただいた方からもたくさんお褒めの言葉を貰い、子どもたちもすごく嬉しそうでした。練習期間は短かったですが、その分全力で取り組み、子ども達自身も上達していく嬉しさやみんなで協力していい作品を作り上げていく楽しさを今回も行事を通して経験でき、大成功で終わることができました。



『書道パフォーマンス』

まごころホーム 竹内早季

先日、第25回の愛育園祭が行われました。毎年オープニングの目玉の一つとして、まごころホームの中高生と職員による書道パフォーマンスを担当することになり、係の先生とどんなものにするか考えて練習を開始しました。初めて大きな紙で練習してみたときに、いつもならもっとうまくいかず苦戦するところ、難なく書き終わり、あっさりと終わってしまいました。子どもたちの反応も何とも言えない感じで、これでお客さんを感動させられるかと言われたら厳しいということで、主任の指導の下、1週間前に内容をすべて変え、もっとレベルの難しい作品に挑戦することになりました。そこからの子どもたちの練習は真剣さが格段に上がり、もっと上手に書こうとする姿勢が見るからに伝わってきました。1週間毎晩1時間半ほど練習し、それでも少しずつ上達して、大きな紙にも堂々と書けるようになっていく姿に「こんなに一生懸命に頑張れるん

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

だな」と改めて感動しました。それと同時に、ここまで頑張れる中高生の力を引き出せなかったことを申し訳なく思いました。今回の書道の練習を通して、改めて人を感動させるものを作り上げることの難しさを感じ、まだまだ自分自身も努力しないといけないなと思いました。そして、当日、子どもたちはみんな緊張していましたが、発表が始まったときの表情に自信も感じられ、見事に最後まで堂々と書き切りました。実は今年の書道パフォーマンスは「第10回目」でした。今までで一番良かったと思います。一人ひとりの自信になっていったらいいなと思いました。

愛育園祭



あおぞらホーム 山田忍

10月30日愛育園祭がありました。今年のテーマは「感謝万全」でした。コロナの影響もあり今年もお客さんをお呼びできないが、いつお客さんが来られてもいいように感謝の気持ちを持ち続け万全に備える。というテーマでした。

私は毎年ジェットコースターのアトラクションの担当でした。でも、今年は思い切ってマンネリ打破のため何か違うものを、

と考え「コーヒーカップ」の提案をしました。そしてGO

サインが出る前からどうやればいいのか？と構想を練り思いを巡らせていました。しばらくしてホーム長より今年はコーヒーカップでいく。とGOサインが出てすぐに準備に取り掛かりました。初めての試みだったため作っていくうちに想像していたものよりサイズが一回り小さくなってしまったり、動作がスムーズにいかなかったりと試行錯誤しました。また、子どもたちとも作り上げていくためある程度ところで制作を止めて一緒に作る時間を計算したり、作業を分担したりしながら作った結果とても良いものを作ることができました。

また、アトラクションの看板作りについても本来「子どもたちと一緒に作る」という指示が出ていたのですが係の子がとてもやる気に燃えていたためデザインから色塗り、制作までほぼ任せてみることにし、自分は少しの口出しに留めていたところ、その子の考えていたデザインもこちらが思い描いていたのとぴったりで制作の進み具合もほぼ任せることができ、看板制作については一切心配する必要がなく自分はコーヒーカップ本体に集中することが出来ていい役割分担ができた。と感じました。それと、コーヒーカップ担当ではない子も積極的に手伝ってくれて準備の



段階から楽しみながら取り組めたのは例年では感じる事のなかった喜びでした。そして、年々子どもたちの気持ちのレベルも上がっているように感じました。その証拠に今の6年生たちから「来年は楽しませる側になることを頑張る」という言葉が出てきたこと。それだけでも素晴らしい愛育園祭だったなと思います。今から来年の愛育園祭が

(令和4年11月10日発行 月刊「円福」506号付録)

楽しみです。

愛育園祭 露店

まごころホーム 牧聖加

私の初めての愛育園祭での担当はからあげ屋さんでした。どれだけの量を用意するのか、どんな様子でふるまうのか、何もかもわからない状態でのスタートでした。不安でいっぱいの中ですが、ペアだった中学2年生のHさんと「絶対楽しもう！」と2人で決め、準備にとりかかりました。看板作りでは細かい作業も多く大変でしたが、お互い褒めあい良い空気の中制作できたと思います。Hさんから「こうした方がいいのではないかな」などと提案をしてくれることも多く、とても協力的で嬉しく思いました。

又、前日から鶏肉を切ったり下味を付けたりする作業があり、当日には揚げる作業があり、かなり大変でしたが、調理の先生に教えていただきながらなんとか完成させることができました。たくさんの人に「おいしい！」と言ってもらえてHさんも私自身もかなり自信につながったと思います。

そして、看板コンテストの結果、からあげ屋さんは2位を取ることができました。毎晩2人で頑張ったのでとても嬉しく、Hさんの心から喜ぶ姿を見て泣きそうになりました。

準備はどれも大変でしたが、当日のみんなが喜ぶ姿や、Hさんと一生懸命に取り組んだ時間を思い返すととても幸せな気持ちになりました。

今回の経験を忘れずに来年の愛育園祭もさらに良いものが作れるようにしたいと思います。



愛育園祭露店



あおぞらホーム 藤原京平

愛育園では、10月30日に愛育園祭を行いました。

私は、H君(高2)とY君(中2)と一緒に「ドキドキシーソー」と「パターDEゴルフ」を担当させていただき、アトラクション制作と看板制作を協力して行いました。

愛育園祭の準備を進める中で、子どもたちは「先生、次は何やる?」「こうやって作るのはどう?」など積極的に準備を手伝ってくれて、看板製作の下書きから始め、色塗り、アトラクション制作、アトラクションの飾りつけと、多くの作業を子どもたちと協力して行い、無事2つのアトラクションを完成させて愛育園祭当日を迎えることができました。

愛育園祭当日も子どもたちと協力して、アトラクションの運営を行いました。アトラクション

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

の運営を行う際には、H君には「パターDE ゴルフ」、Y君には「ドキドキシーソー」を担当してもらい、主な接客は子どもたちに任せ、私はその補佐を行う形で進め、子どもたちの頑張りもあり、無事アトラクションの運営を行うことができました。

今回の愛育園祭は、子どもたちと共に素晴らしい行事を作り上げることができました。来年の愛育園祭の際も、今年以上にパワーアップして、もっと素晴らしい行事になればと思います。

愛育園祭 児童感想 あおぞらホーム

10月30日に愛育園祭がありました。今年の愛育園祭のテーマは感謝万全です。僕はアトラクションの係を担当しました。アトラクションの看板作りにも力を入れました。中高生では扇子演舞を発表するので扇子にも力を入れて頑張りました。本番で扇子演舞を成功させることが出来て良かったです。アトラクションではみんなを楽しませるように一生懸命できました。射的では一等を当てることができて良かったです。アトラクションでためたポイントは円福寺券として、駄菓子と交換しました。僕的には円福堂（駄菓子屋さん）は来年も続けてほしいです。来年もし愛育園祭が通常開催になったらクラスの友達を沢山呼びたいです。



(中2 M・Aくん)

令和4年10月30日（日）に愛育園祭がありました。まず最初に餅つきをしました。その後円福寺までお神輿を担いでいき、お参りをしてそこから第二駐車場に行き開祭式をしました。木遣いや開祭宣言などをやった後に運動会でもやった扇子演舞をやり、その後はまごころ中高生、先生方による書道パフォーマンスがありました。その後はいよいよアトラクションが始まり、あおぞら中高生、先生によるアトラクション準備の最終調整を行いました。アトラクションの部が始まり、僕は射的係で小学生やまごころの中高生にルール説明をしました。ある程度お客さんがいなくなったところで自分たちもアトラクションに参加し、各アトラクションでポイントを稼ぎ、僕は合計410円分の円福寺券をもらいました。その410円で駄菓子を20個買いました。今年も最高の愛育園祭だったのでまた来年も楽しみです。

(中3 N・Rくん)

愛育園祭 児童感想 まごころホーム

今日は愛育園祭がありました。僕の担任の先生が来ました。一緒にコーヒーカップに乗りました。楽しかったです。駄菓子屋さんにも行きました。ブラックサンダーを買いました。お昼ご飯を食べました。唐揚げが美味しかったです。来年も楽しみです。

(小2・Kくん)

(令和4年11月10日発行 月刊「円福」506号付録)

10月30日に愛育園祭がありました。射的、コーヒーカップ、ストラックアウト、パターDE ゴルフ、ドキドキシーソーをやりました。射的は2等を当てました。本当は3等を当てたかったので悔しかったです。コーヒーカップは担任の先生とやりました。ストラックアウトは、100点でした。楽しかったです。パターDE もやりました。一回も入りませんでした。ドキドキシーソーは一回入りました。二回目は入りませんでした。モグラたたきも楽しかったです。全部回って何点とか書くと駄菓子屋でお菓子を買えます。私も買いました。一杯買えました。その後にご飯を食べて、看板コンテストの結果発表がされました。1位は、駄菓子屋さんの看板です。唐揚げ屋さんの看板が2位でした。3位はミニオンズのチョコバナナの看板です。私の看板は発表されなくて悲しかったけど、すごく楽しかったです。またやりたいです。

(小3・Rさん)

10月30日に、愛育園祭がありました。愛育園祭で特に頑張ったのは書道パフォーマンスです。私は、書道が得意ではないので、初めは全然うまくできませんでした。「勇往邁進」という字も、あの時初めて見た字だったので書けるかとても不安でした。でも、みんなより早く練習をしたり、たくさん文字の練習をして、きれいに書けるようになって嬉しかったです。背景ではもっと速く書いてとたくさん言われたし、文字を書く時も、自分よりも大文字の方が早く終わったりした時もあったりして凄く焦ったときもあったけど、本番では、無事時間内に書き上げて成功させることができてとても達成感があったし、毎晩遅くまで練習したかいがあったなと思いました。

露店ではトッポギをやりました。朝、ハチミツを一杯入れたのが楽しかったです。辛いのは苦手だったけどとても美味しく出来たので良かったです。アトラクションもとても楽しかったです。キッキングスナイパーで、全然倒せなかったのが一番悔しかったけど、楽しめました。今年もとてもいい愛育園祭だったと思います。来年はコロナもおさまって沢山お客さんと呼ばれたいと思います。

(中3・Uさん)

10月30日に、第25回愛育園祭が開催されました。私が今回愛育園祭で心に残っていることが3つあります。

1つ目は、愛育園祭前日までの準備です。ステージバックの色塗り、露店の看板作り、体育館に飾る提灯の色塗りや切り取り、円福堂の看板作り、円福寺券の切り取りなど例以上の準備がありました。私は、高校生として準備を率先してやることができました。

2つ目は、扇子演舞です。先月の運動会以上の演舞を来て頂いた方に見せられるようにほぼ毎日、練習をしていました。しかし、前日のリハーサルで女子が全然そろってなくてリハーサルの後に30分くらい練習をしました。なので、当日は前日の練習の成果を発揮することが出来たので良かったです。

3つ目は、書道パフォーマンスです。今年は、2週間前から練習が始まりました。練習3回目

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

には大きい紙で練習をしました。しかし、完成した作品を見て、皆が納得していなくて、急遽一から内容を変え、練習を始め直しました。練習では、上手い出来ない事の方が多く、皆で意見を出し合いながらやりました。また、個人練習の時間を多く取ってもらったおかげで、一人ひとりの字が初めて書いた時よりも良い字になっていてびっくりしました。今年、私は新しいハンコの彫り直しをやらせてもらいました。毎日コツコツと彫ったかいがあったなと完成作品をみて思いました。

最後に、今年もコロナの影響で多くのお客さんをお呼びすることが出来なかったけど、来年こそはコロナ前のように元に戻れば良いなと思います。思い出に残る愛育園祭になって良かったです。

(高1・Sさん)

あおぞらホームだより

あおぞらホーム 石龍成己

今年も残すところ2か月を切ってきました。1年で一番長い2学期もたくさん行事を行いながらあっという間に過ぎてきました。それでも毎年11月が子どもたちにとっては大きな月となるのでそれぞれ目標を持って頑張ってもらいたいと思います。中学生は2学期期末テストがあります。今までのテストは行事と並行して勉強をしていたので、それぞれが自分で残された時間を使い学習するスタイルでやってきて、それとなく頑張っていました。11月は何か練習すると言った行事がありません。時間自体はたくさんあるので、しっかり計画を練って頑張ってもらいたいと思います。特に今年あおぞらには3人の受験生がいて、このテストが終われば入試で使う内申もすぐに出てきます。いきなり成績を伸ばす事は難しいとは思いますが、少しでも悔いが残らないよう取り組めたらと思います。

まごころホームだより

まごころホーム 遠藤あゆな

11月に入り、気温が一気に下がり寒い日が続きますが、子どもたちは変わらず元気いっぱいです。

園では、10月30日に愛育園祭を行いました。まごころホームの中高生は、書道パフォーマンスと飲食の露店を担当しました。書道パフォーマンスは、一人ひとりがどうしたら力強く、上手く、素早く書けるのか、音に乗せて書くにはどうしたらよいのかを必死で考え、強い思いを持って毎日練習に励みました。学校と園の生活もある中で、弱音も吐かずに頑張ることができる子どもたちの姿はとても素晴らしく、私自身も力をもらいました。露店では、試行錯誤しながら職員と共に美味しい物を作り上げ、昼食を盛り上げました。

コロナの状況が芳しくなく、多くの人に来ていただくことは出来ませんでしたが、お世話にな

(令和4年11月10日発行 月刊「円福」506号付録)

っている方々への感謝の気持ちを込めて作り上げることが出来た最高の行事でした。

今月もまた行事が予定されています。良いものとなるように日々の生活をこつこつと頑張っていきたいと思います。

調理室だより

調理員 宮沢まき江

10月30日待ちに待った愛育園祭が素晴らしい晴天の元行われました。

9月25日に行われた運動会に引き続き、子供達・先生方は準備に専念されていました。

心待ちにしている様子が伺えました。

当日はみんな笑顔でとても楽しそうでした。

この日調理では、3臼の餅を子供達についてもらい【あんこ・きな粉・ごま】の餅と、豚汁を担当しました。

大鍋いっぱい作った豚汁も、100パック作ったお餅も完売する事が出来ました。

コロナ禍になる前は大勢のお客様に来て頂き、豚汁は大鍋で3鍋作り食して頂きましたが、ここ数年は量を減らし、来年こそは大勢の皆様に来て頂ける事を願うばかりです。

7日・14日：小学1年生の遠足、遠足予備日でお弁当を作りました。

16日：Aさん誕生日メニュー

カツ丼・カリカリポテト・チョレギサラダ・抹茶チーズケーキ

今月も暖かな日が多くありましたが、これからは本格的な寒さが到来してきます。

調理では子供達が寒さに負けない体力で頑張れる食事を提供していきたいと思います。

